

Catch up **滋賀医大** : **滋賀医大ニュースレター**
第15号

著者	滋賀医科大学
発行年	2011-07-04
URL	http://hdl.handle.net/10422/9107

Catch Up 滋賀医大

2011.07.04 第15号



京都橘学園と教育研究協力に関する包括協定を締結

H23.05.26

本学 馬場忠雄 学長と 京都橘学園 梅本裕 理事長は、大会議室において「教育研究協力に関する包括協定書」の調印を行いました。

協定書は、京都橘学園と相互に交流を深め、教育・研究の充実及び発展を図ることを目的とする内容です。

本協定の締結により、平成23年6月から本学の看護師が京都橘大学看護学部及び看護学研究科へ教育出向し、教育研究活動を行ないます。

また、安全な周産期医療提供のためのシステム構築を目指した共同研究等、今後の成果が期待されます。



調印式の様子

東京ディズニーリゾートからのミッキーマウス・ミニーマウスの来訪がありました

H23.06.16



会場の様子



NICU・GCUの様子

藤野看護部長が、病気療養中で東京ディズニーリゾートにいけない子供達のところに、ミッキーマウスが違いに来ていただけると、手紙を書いて、今回の夢の時間が実現いたしました。

6月16日(木曜日)11時に東京ディズニーリゾート・アンバサダー(親善大使)馬場様が、ミッキーマウス・ミニーマウスとともに、滋賀医科大学医学部附属病院にやってきました。

小児病棟・NICU・GCU に入院している子供達や保護者の方たちに、楽しい時間を届けていただきました。

多くの子供達は、笑顔いっぱいになり、ミッキーマウス・ミニーマウスから元気をいただきました。また、付き添われているお母様も、ミッキーマウスと握手し涙ぐまれ元気になりました。

日頃忙しい看護師や医師や研修医も間近に逢うことができ、興奮状態ではありましたが、日頃の疲れが少し癒されたかと思えます。

東京ディズニーリゾートに戻るミッキーマウスとミニーマウスに、子供達からお手紙が送られました。

17時50分からのきらりん滋賀で放映され、新聞紙面においても掲載されました。

平成 23 年度 滋賀医科大学入学式が挙行され、新入生 212 名を迎え入れました

H23.04.05

平成23年度入学式を4月5日(火)に本学体育館で挙行し、医学科学生100名、看護学科学生70名、大学院生(博士課程)29名、大学院生(修士課程)13名の新入生を迎え入れました。

入学式では、馬場学長から告辞があり、「希望や理想は他人からもらう

ものではありません。自分から考え作り出すものであります。入学生諸君は、多様な考え、好奇心を大切に、目的を明確化したあとは、どんなに苦難の険しい道であろうとも忍耐強く取り組んで下さい。」と激励しました。



212名新入生を迎えました

福島県北部地域へ本学医療救護班(心のケアチーム)を派遣

H23.04.06



出発の様子



現地での活動

本学は、滋賀県からの要請により、4月6日(水)に、医師1名(今井眞)、看護師2名(安藤光子、水谷美紀史)、事務職員1名(立目和雄)の4名で編成する本学医療救護班(心のケアチーム)を福島県北部地域へ派遣しました。

現地では、福島県県北保健所を拠点に福島県伊達市内の避難所を巡回し、避難住民の心のケア対策等の活動を実施しているとの情報が届いております。

本学へは、4月10日(日)に帰学する予定です。

平成23年度新入生宿泊研修を実施

H23.04.07~08

4月7・8日の両日、近江八幡休暇村等において、平成23年度の新入生宿泊研修を実施しました。研修には、医学科、看護学科の新入生170名全員及び引率教職員と総勢約190名が参加しました。

初日は、近江八幡休暇村での飯ごう炊さんに始まり、「滋賀の魅力」「人権学習」やクラス別懇談会などを実

施、2日目は、本学教員による「煙害について」、「保健管理センターについて」や消費生活センターの相談員、弁護士の先生による講演の後、陶芸体験を実施するなど、中身の濃い2日間となりました。



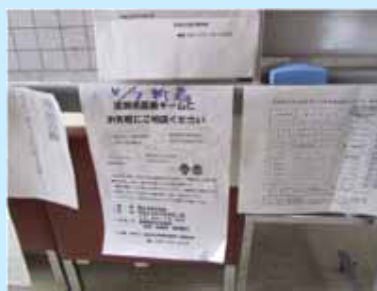
留学生有志による日本舞踊

「心のケアチーム」福島県北部での医療救護を終えて帰学

H23.04.10



「心ケアチーム」メンバー



案内ビラ（霊山中央公民館）

滋賀県からの要請により、4月6日(水)から「心のケアチーム」として福島県北部で医療救護活動を行ってきた本学の医師1名(今井 眞)、看護師2名(安藤 光子、水谷 美紀史)、事務職員1名(立目 和雄)が3日間の活動を終え、4月10日(日)に帰学しました。

伊達市を中心に6カ所の避難所(避難者約460名)を巡回し、被災者の悩みや不安感の解消等について相談や診療を行いました。

福島県会津若松市へ本学医療救護班を派遣

H23.04.10

本学は、滋賀県からの要請により、4月10日(日)に、医師2名(松村 一弘、藤井 応理)、看護師2名(福竹 法子、小崎 信子)、事務職員1名(伊藤 峰雄)の5名で編成する本学医療救護班を福島県会津若松市へ派遣しました。

現地では、福島県会津保健福祉事務所を拠点に、各避難所を巡回して診療活動を行ない、4月14日(木)に帰学する予定です。



医療救護班メンバー



出発準備の様子

本学医療救護班が活動を終えて帰学

H23.04.14



現地の様子



帰学時の様子

滋賀県からの要請により、4月10日(日)から福島県会津若松市で医療救護活動を行ってきた本学の医師2名(松村 一弘、藤井 応理)、看護師2名(福竹 法子、小崎 信子)、事務職員1名(伊藤 峰雄)が3日間の活動を終え、4月14日(木)に無事帰学しました。

現地では、愛知県薬剤師チームと共同して会津美里町及び会津坂下町の各避難所を巡回し、延べ96名の被災患者に対し診療活動を行ないました。

管弦楽団による新入生歓迎ミニコンサートを開催

H23.04.15

4月15日(金)の18時からクリエイティブ・モチベーション・センターにおいて管弦楽団による新入生歓迎ミニコンサートが開催されました。

弦楽器、管楽器等のパーツごとの楽器紹介や演奏があり、パッヘルベルのカノン、モーツァルトのアイネクライネナハトムジーク、ジブリのいつも何度でも、ディズニーからアンダーザシー etc が和気あいあいとした雰囲気の中で、演奏されました。



ミニコンサートの様子

福島県会津若松市へ本学医療救護班を派遣

H23.04.17



派遣チーム



出発の様子

本学は、滋賀県からの要請により、4月17日(日)に、医師2名(手塚 則明、稲富 理)、看護師1名(伊藤 真知子)、理学療法士1名(岩井 宏治)、事務職員1名(三四 毅)の5名で編成する本学医療救護班を福島県会津若松市へ派遣しました。

現地では、福島県東山温泉を拠点に、各避難所を巡回して診療活動を行ない、4月21日(木)に帰学する予定です。

平成23年度新入生歓迎会を開催

H23.04.18

4月18日(月)に本学福利棟食堂において、平成23年度の医学科、看護学科の新入生を迎え、新入生歓迎実行委員会主催の新入生歓迎レセプションが行われました。

多くの新入生の参加のもと、新入生歓迎委員会委員長の医学科2年 高原在良君の司会で歓迎会が進行され、ビンゴゲームでは賞品をもらった新入生が自己紹介と記念撮影を行い、大いに盛り上がりました。

この歓迎会の開催で体育会系の新入生クラブ勧誘期間は終了となり、翌日からは文化会合同の歓迎のイベントがクリエイティブモチベーションセンターなどで行われます。

また、19、20日にはアカペラサークルなどによる新入生歓迎ミニコンサートが福利棟ピロティで行われました。



ビンゴゲームの様子

福島県会津若松市へ本学医療救護班を派遣

H23.04.20



派遣チーム



出発の様子

本学は、滋賀県からの要請により、4月20日(水)に、医師2名(宇津貴、澤井 俊宏)、看護師2名(白石知子、古川 友紀)、薬剤師1名(田淵 陽平)、事務職員1名(澤居 みゆき)の5名で編成する本学医療救護班を福島県会津若松市へ派遣しました。

現地では、福島県東山温泉を拠点に、各避難所を巡回して診療活動を行ない、4月24日(日)に帰学する予定です。

本学医療救護班(Bチーム)が活動を終えて帰学

H23.04.21

滋賀県からの要請により、4月17日(日)から福島県会津若松市で医療救護活動を行ってきた本学の医師2名(手塚 則明、稲富 理)、看護師1名(伊藤 真知子)、理学療法士1名(岩井 宏治)、事務職員1名(三四毅)が3日間の活動を終え、4月21日(木)に無事帰学しました。

現地では、医療班+理学療法班として東山温泉地区の各宿泊施設を巡回し、延べ78名の被災患者に対し診療活動を行ないました。



対策本部でのミーティング



帰学の様子

本学医療救護班(Cチーム)が活動を終えて帰学

H23.04.24

滋賀県からの要請により、4月20日(水)から福島県会津若松市で医療救護活動を行ってきた本学の医師2名(宇津 貴、澤井 俊宏)、看護師2名(白石 知子、古川 友紀)、薬剤師1名(田淵 陽平)、事務職員1名(澤居 みゆき)が3日間の活動を終え、4月24日(日)に無事帰学しました。

現地では、愛知県薬剤師チームと共同して会津坂下町、柳津町、喜多方市、会津美里町の各避難所8ヶ所を巡回し、延べ60名の被災患者に対し診療活動を行ないました。



活動の様子

膳所高校との高大連携事業による講義が始まりました

H23.04.25



講義の様子



服部副学長の挨拶

平成20年7月に協定を締結し、今年度で4回目となる膳所高校との高大連携事業による本学での講義(基礎医学講座)が4月25日(月)に臨床講義室2を会場として始まりました。

今年度は11月14日(月)までの計8回シリーズで実施されます。受講生は男子16名、女子18名の計34名で、いずれも医学関係に興味のある2年生です。

今回は第1回目ということで、膳所高校からは淵田学校長にもご出席いただき、開講に当たり、服部副学長と同校長から、生徒へご挨拶がありました。講義は、解剖学講座(神経形態学部門)の相見准教授に担当

いただき、テーマを「形から知るからだのしくみ - 解剖学・組織学 - 」として、時折、ユーモアも交えながら、解りやすくお話いただきました。生徒たちはやや緊張しながらも、講義内容をノートに書き留めるなど熱心な様子が見て取れました。講義終了後には、受講した生徒だけでなく、引率いただいた先生からも質問がありました。

今年度の事業はこのシリーズ以外に、夏休みの8月に生化学・分子生物学講座(分子生理化学部門)の先生方による実習が1日と、9月には理数科1年生を対象とする、講義と生理学講座(細胞機能生理学部門)の先生方による実習が1日予定されています。

福島県会津若松市へ本学医療救護班(Dチーム)を派遣

H23.05.09

本学は、滋賀県からの要請により、5月9日(月)に、医師1名(阪上 芳男)、看護師2名(山本 佳奈、阪東直美)、理学療法士1名(澁川 武志)、事務職員1名(渡邊 健一)の5名で編成する本学医療救護班を福島県会津若松市へ派遣しました。

現地では、福島県会津保健福祉事務所を拠点に、各避難所を巡回して診療活動を行ない、5月13日(金)に帰学する予定です。



出発の様子

立命館守山高校との高大連携による初めての講義が始まりました

H23.05.13



講義の様子



服部副学長の挨拶

昨年(平成22年)12月に協定を締結した立命館守山高校との高大連携事業による本学での初めての講義が5月13日(金)に臨床講義室2を会場として始まりました。

協定締結に先行して昨年11月に同高校で医学部入門講座として1年生を対象に実施された、社会医学講座(衛生学部門)の埜田准教授による講義等の効果もあり、受講生は男子17名、女子15名の計32名と高校の予想を上回る人数となりました。いずれも、フロンティアサイエンスコース(FSC)の2年生で、医学科や看護学科等の医療関係学科を希望進路とする生徒です。

初年度の今回の講義は、医療基礎セミナーと題され、10月14日(金)までの計8回シリーズで実施されます。今回は初回ということで、立命館守山高校からは中村副校長にもご出席いただき、開講に当たり、服部副学長と同副校長から、受講生へ激励の挨拶をしていただきました。

講義は、看護学科・地域生活看護学講座の安田教授に担当いただき、テーマを「地域医療の現状と課題」として、医療環境、地域医療の崩壊、終末期医療の三つを基本とする幅広い内容を解りやすくお話しいただきました。生徒たちは、日頃耳にはしているものの十分には理解できていないテーマについて、各種統計等の提示を受けながら実情について詳しく聴くことにより現状理解を深めた様子でした。

講義終了後には、受講した生徒だけでなく、引率いただいた先生からも質問がありました。

当日は、立命館大学広報課から同大学ホームページにニュース掲載したいとして申し込みがあり、経済学部が取材のため聴講・撮影・インタビューを行っていました。

今年度の事業はこのシリーズの他に、夏休みの8月に病理学講座の先生方による実習が1日予定されています。

本学医療救護班(Dチーム)が活動を終えて帰学

H23.05.13

滋賀県からの要請により、5月9日(月)から福島県会津若松市で医療救護活動を行ってきた本学の医師1名(阪上 芳男)、看護師2名(山本佳奈、阪東 直美)、理学療法士1名(澁川 武志)、事務職員1名(渡邊健一)が3日間の現地活動を終え、5月13日(金)に無事帰学しました。

現地では、医療救護班として猪苗代町、東山温泉、河東町、北塩原村の各避難所を巡回し、延べ109名の被災患者に対し診療活動を行いました。



帰学の様子

第36回浜松医科大学・滋賀医科大学交流会

H23.05.13~14



閉会式での服部副学長からの優勝杯授与

第36回浜松医科大学・滋賀医科大学交流会が、今年度は本学が当番校となり、本学を主会場に5月13日(金)および14日(土)に実施されました。

開会式が13日の12時から本学体育館で行われ、大会参加者は両校で約900名余となりました。

その後、両日とも快晴の中で各競技において熱戦が繰り広げられました。

その結果、本学の総合優勝となり、再び優勝杯を手にすることができました。

通算で本学の18勝13敗5引き分けとなり、来年の浜松医大での再会を約束し大会は終了いたしました。

フォレオで「看護の日」イベントを開催

H23.05.13

5月12日は看護の日です。病院再開発工事のため、今年度はショッピングモール「フォレオ」で13日に看護の日イベントを開催しました。

午後13時から16時まで、1階中央入口スペースと地下中央スペースを使用して血圧測定、血管年齢測定などの健康チェックを行いました。

専門・認定看護師の分野では、禁煙相談、皮膚排泄ケア相談、がん相談、摂食嚥下相談、放射線看護、治

験、救急看護等のパネル展示や説明会、AEDの実施を行いました。

健康チェック部門では100名以上の参加をして頂き、非常に盛況のうちに終了しました。

またイベントの一環で「うさぎ」と「ばんだ」の着ぐるみを着てちらしと共に傷テープやキキラシールの配布も行い、小さな子供達には大人気でした。また、BBCの取材を受け、当日18時のニュースで放映されました。



血管年齢測定の説明を受けられる参加者

福島県福島市へ本学医療救護班(心のケアチーム2)を派遣

H23.05.18



出発の様子

本学は、滋賀県からの要請により、5月18日(水)に、医師1名(相良 雄一郎)、看護師2名(細川 数子、本岡 芳子)、事務職員1名(上野 市太郎)の4名で編成する本学医療救護班(心のケアチーム2)を福島県福島市へ派遣しました。

現地では、福島県精神保健福祉センターを拠点に、各避難所を巡回して避難住民の心のケア対策等の活動を行ない、5月22日(日)に帰学する予定です。

滋賀医科大学若手事務職員研修を実施

H23.05.19~20

5月19日～20日、琵琶湖リゾートクラブ(守山市)において、35才以下の事務部門職員又は平成15年度以降に採用された事務部門職員26名を対象に滋賀医科大学若手事務職員研修を実施しました。

本研修は、若手事務職員が一体感を培うとともに大学として目指すべき職員像について考え、やりがいを持って仕事に取り組む意識発揚の機会として実施したもので、1日目は学長、総務等担当理事の講義および外部講師による企画力・プレゼンテー

ション研修を行い、2日目は堀池喜八郎教授により「滋賀医科大学での教育活動について」、竹内義博教授により「滋賀医科大学の臨床教育と診療活動」、聖泉大学・井戸和男客員教授より「大学法人事務職員の今後のあり方」の講義とグループディスカッションが行われました。

班別で行った企画力・プレゼンテーション研修、グループディスカッションでは受講者同士の活発な意見が飛び交い、また講師の話には熱心に聞き入る姿が見られ、熱気にあふれた研修となりました。



研修の様子



集合写真

本学医療救護班(心のケアチーム2)が活動を終えて帰学

H23.05.22



帰学の様子

滋賀県からの要請により、5月18日(水)から福島県福島市で医療救護活動を行ってきた本学の医師1名(相良 雄一郎)、看護師2名(細川 数子、本岡 芳子)、事務職員1名(上野 市太郎)が3日間の現地活動を終え、5月22日(日)に無事帰学しました。

福島市を中心に5カ所の避難所(避難者約496名)を巡回し、被災者の悩みや不安感の解消等について相談や診療を行いました。

第34回解剖体納骨慰霊法要を執り行いました

H23.05.28

5月28日(土)午前10時30分から比叡山延暦寺阿弥陀堂において第34回解剖体納骨慰霊法要を執り行いました。前々日からの梅雨により雨模様の天気でしたが、ご遺族、ご来賓、しゃくなげ会会員および学生、教職員総勢約330名が参列し、故人のご冥福をお祈りしました。

今回お祀りした32名の御霊並びにご遺族に対し、馬場学長から感謝の意が述べられるとともに、学生に対し、「医学教育のために自らの身体を捧げて下さった御霊のことをいつまでも忘れることなく、信頼される医師や人々の幸せに貢献する医学研究者として“一隅を照らす人”に育ってくださることを期待しています。」と述べられました。

続いて、学生代表 藤崎拓也君が、

解剖実習で得られた知識と経験を礎として、故人のご遺志に恥じることがない医師となるべく生涯努力し続けることをご霊前に誓いました。

法要終了に引き続き、故人(献体者)に対する文部科学大臣の感謝状を学長からご遺族代表にお渡しし、併せて、学生の手によりご遺骨をお返ししました。

午後から予定されていた比叡山横川にある大学霊安墓地での納骨式は、あいにくの天候のため、ご遺族の皆様方にはご参列いただけませんが、学長、副学長、しゃくなげ会理事長、学生代表2名と関係教職員が代表して墓地へ出向き、読経の中、焼香を行った後、分骨いただいたご遺骨を学生代表らがお一人ずつ納骨堂にお納めしました。



学長の祭文



学生代表の慰霊の詞

宮城県石巻市へ本学医療支援チーム(Aチーム)を派遣

H23.06.03



出発の様子

本学は、国立大学協会及び国立大学附属病院長会議からの要請を受け、6月3日(金)に、医師2名(松井 克之、卯木 智)、看護師2名(林 健太郎、布施 ゆか)、薬剤師1名(神谷 貴樹)、事務職員1名(湯浅 賢一)の6名で編成する医療支援チーム(Aチーム)を宮城県石巻市大街道地区へ派遣しました。

本学は、近畿ブロック医療支援チー

ムの構成大学として、大阪大学、京都大学、福井大学とのリレー方式により、被災地域の復興に資するための医療支援活動を中長期にわたって継続的に行います。

現地では、石巻赤十字病院を拠点に、各避難所を巡回して診療活動を行ない、6月8日(水)に帰学する予定です。

本学医療支援チーム(Aチーム)が活動を終えて帰学

H23.06.08

国立大学協会及び国立大学附属病院長会議からの要請により、宮城県石巻市で医療支援活動を行ってきた本学の医師2名(松井 克之、卯木 智)、看護師2名(林 健太郎、布施 ゆか)、薬剤師1名(神谷 貴樹)、事務職員1名(湯浅 賢一)が4日間の活動を終え、6月8日(水)に無事帰学しました。

現地では、石巻市大街道地区を中心に5ヶ所の避難所(避難者542名)を巡回し、延べ20名の被災患者に対し診療活動を行いました。



避難所の様子



帰学の様子

福島県へ本学スクリーニング(放射線量測定)チーム1を派遣

H23.06.09



馬事公苑の様子



帰学の様子

本学は、文部科学省からの要請を受け、6月5日(日)から9日(木)までの5日間、放射線技師1名(濱津 尚就)、技術職員1名(飯島 圭)の2名で編成するスクリーニング(放射線量測定)チーム1を福島県へ派遣しました。

現地では、福島市内の福島県自治会館を拠点に、双葉郡広野町の広野町中央体育館、南相馬市の馬事公苑、双葉郡川内村の村民体育センターを巡回し、およそ460名の一時帰宅者に対してスクリーニングを行ないました。

科学技術講演会・育成研究成果報告会が開催

H23.06.13

(独)科学技術振興機構、JST イノベーションサテライト滋賀が、産学官連携研究開発支援プログラムのひとつとして「育成研究」を実施しており、このほど3年間の研究期間を終了した課題の研究成果報告会が、6月13日(月)にコラボ滋賀で開催されました。本学からは、小松直樹准教授が、「ナノダイヤモンドを用いたマルチ

モーダル分子イメージングプローブの創生」について成果報告を行いました。

この報告会には、近畿地区の大学・企業の研究者や行政関係者等多数参加し、成果報告を興味深く聴講するとともに、活発な質疑応答が行われました。



小松准教授 成果報告

高校生が附属病院を見学しました

H23.06.13



総合受付

膳所高校との高大連携事業の一環として、6月13日(月)に、病理学講座(微生物感染症学部門)の井上准教授による講義の後、午後5時20分頃から、同校の生徒・教諭、約40名が附属病院を見学しました。

2班に分かれ、医師臨床教育センター・金崎先生と看護部・林副看護部長のお二人に、総合受付、放射線部(CT)、救急部、リハビリテーション部、スキルズラボ、5A病棟(小児

科)、展望レストランの7箇所を基本に案内していただきました。

各所においては、案内のお二人や関係の方々から、その場所で行っている業務や特徴等について、わかりやすい説明を受けました。

今回は時間的な制約等から駆け足気味での見学となりましたが、それでも、参加の生徒からは、医学・医療関係への関心が更に高まったとの感想も聞かれました。

夏期課外活動等における熱中症(事故)対策講習会を実施

H23.06.21

本学では、例年、課外活動団体の練習等が最盛期となるこの時期に、江口 豊救急集中治療医学講座教授を講師として夏期の課外活動等における熱中症の予防、対策についての講習会を実施しています。

今年は6月21日(火)の第3時限目に臨床講義棟臨床講義室1にて開催

しました。学生たちはクラブ活動時のみならず、日常生活においても熱中症にかからないために、また遭遇した場合の対処方法を真剣に学びました。

なお、今回は、併せて、東日本大震災の発生を受けボランティア活動に関する講習も行われました。



真剣に聞き入る学生

本学医療支援チーム(Bチーム)が活動を終えて帰学

H23.06.24



現地活動の様子

国立大学協会及び国立大学附属病院長会議からの要請により、6月19日(日)から24日(金)までの6日間、本学の医師2名(塩谷 淳、木村 紀遵)、看護師2名(井出 康介、芝田 暖子)、薬剤師1名(谷本 絵里子)、事務職員1名(奥村 龍雄)で編成する医療支援チーム(Bチーム)を宮城県石巻市へ派遣しました。

現地では、石巻赤十字病院を活動拠点に、石巻市大街道地区の避難所4ヶ所(釜会館、ひたかみ園、釜小学校、大街道小学校)を巡回し、被災患者に対し診療活動を行いました。

平成 23 年 7 月 ~ 9 月の行事予定

7月24日	公開講座「小児アレルギー-夏期ゼミナール」
7月28日	医学科オープンキャンパス
8月 3日	看護学科オープンキャンパス

大学概要



所在地：
〒520-2192
滋賀県大津市瀬田月輪町

開学：
1974年10月1日

活動内容：
教育・研究・診療

役員：
学長 馬場忠雄
理事（教育等） 服部隆則
理事（医療等） 柏木厚典
理事（経営等） 村山典久
理事（総務等） 谷川成美



担当

企画調整室

TEL: 077-548-2012 FAX: 077-543-8659

本学 Web サイト URL:
<http://www.shiga-med.ac.jp/>

E-MAIL:
hqkouhou@belle.shiga-med.ac.jp

報道された滋賀医科大学 (平成 23 年 4 月～平成 23 年 6 月)

教育関係

2011/06/27	伊賀タウン情報 YOU	紹介状の無い患者の受け入れ再開 上野総合市民の院長が説明
2011/06/27	京都	産婦人科 看護能力向上へ 医師負担減へ滋賀医大と京都橘大連携
2011/06/10	中日	滋賀医大の編入 1 次実施 601 人受験
2011/05/27	京都	滋賀医科大学と京都橘大学協定 医療教育で連携
2011/05/11	読売	いつまでも心は一緒 「3 姉妹コンテスト」で優勝した 3 姉妹の長女 藤原 菜穂子さん
2011/04/20	朝日	県ゆかり 医学生ら応援 NPO 目指し機構設立
2011/04/16	滋賀リビング	滋賀県の国立大学
2011/04/10	京都	PTA 代表者ら子の睡眠効用学ば
2011/06/10	中日	滋賀医大の編入 1 次実施 601 人受験
2011/05/27	京都	滋賀医科大学と京都橘大学協定 医療教育で連携
2011/05/11	読売	いつまでも心は一緒 「3 姉妹コンテスト」で優勝した 3 姉妹の長女 藤原 菜穂子さん

研究関係

2011/06/27	zakzak	「肺がん」安全確実に負担少ない術式開発
2011/06/10	産経	滋賀医大など 新治療法開発 頭頸部癌の増殖制御
2011/06/07	京都	滋賀医大 頭頸部がん治療法開発
2011/06/07	中日	頭頸部がん 増殖制御
2011/05/07	京都	県支援、医療で産学連携 第 1 号 滋賀医大と栗東のメーカー 手術用の製品化開始

病院関係

2011/06/17	朝日	ミッキー見舞い 滋賀医大病院 入院中の子ら
2011/06/17	読売	入院の子 ミッキーの笑顔に
2011/06/17	中日	ミッキーら元気お届け 滋賀医科大学病院 小児病棟の子どもに
2011/06/16	読売	草津総合病院 小児科医の要請不十分
2011/06/15	朝日	「診療体制整える」小児センター指定取り消し問題 草津総合病院、市に報告
2011/06/15	読売	公設民営化に慎重論も 野洲暴飲検討委が初会合.
2011/06/15	京都	地域に必要 医療目指す 野洲病院検討委 初会合
2011/06/14	医療介護 BC ニュース、キャリアプレス	HbA1c 値の算出法見直し、結論先送りー厚労省検討会
2011/06/05	読売	病院の実力「災害拠点病院」
2011/06/01	朝日	がん患者の相談員募集 県団体連絡協
2011/04/26	産経	県と大阪府 ドクターヘリ共同運航 あすにもスタート
2011/04/26	毎日	大阪府のドクターヘリ あすから共同利用
2011/04/09	京都	草津総合病院小児救急医療 「医師派遣」と虚偽文書.
2011/04/06	中日	医師派遣依頼受けず 自治医科大が明かす
2011/04/05	読売	草津 小児救急 4 病院で診療 市救急医療センター休診で小児救急が休診 草津総合病院内市医療センター 医師着任めど立たず
2011/04/03	中日	小児救急が休診 草津総合病院内市医療センター 医師着任めど立たず
2011/04/01	読売	滋賀病院医師 10 人

2011/04/01	中日	国立滋賀病院 きょうから医師 25 人に
2011/04/01	各紙 (2 紙)	滋賀病院 25 人態勢で診療

社会連携

2011/06/24	産経	滋賀医科大学 市民公開講座
2011/06/23	読売	放射線療法講座・がん早期発見公開講座
2011/06/21	滋賀県市民新聞	滋賀医科大学 市民講座 「乳がん、甲状腺がんー早期発見で小さな手術ー」
2011/06/08	中日	肝臓病の理解深め日常生活の向上を 大津市で公開講演
2011/06/07	毎日	「生活リズムを」太陽光の証明 多機能型介護事務所 「みんなの家」オープン
2011/06/05	産経	手話通訳 悩める肩こり なり手少なく仕事集中
2011/06/04	京都	日本消化器病学会市民公開講座
2011/06/03	産経	第 1 回 肝臓病教室
2011/05/20	朝日	第 29 回日本肥満症治療学会学術集会 市民講座 「学会が推奨するダイエット法・肥満治療
2011/05/13	産経	「看護の日」イベント
2011/04/29	滋賀	国際スロプチミスト東近江の講演会 子宮頸がんから命を守る
2011/04/08	産経	市民公開講座

その他

2011/06/27	京都	土壌浄化、9月福島で菜の花栽培 食・水・エネルギー地域で
2011/04/26	京都	大震災にどう立ち向かうか 初期対応混乱 司令塔が必要
2011/04/08	読売	義援金